

第 14 回和歌山県作業療法学会開催にあたり

一般社団法人 和歌山県作業療法士会
会 長 川 雅弘

第 14 回和歌山県作業療法学会が小島徹也学会長のもと、和歌山市において開催されること、たいへん嬉しく、感謝を申し上げます。

さて、今学会のテーマには「作業療法士は県学会で元気になれる」が掲げられています。ところで皆さんはこれまで学会に参加したことがあるでしょうか。全国を見渡せば近畿作業療法学会や日本作業療法学会、職域や分野に特化したさまざまな学会が開催されており、主に研究発表や講演が用意されています。『学会に参加する』という

ことには、「演題発表する」、「講師やシンポジストをする」、「座長や司会をする」、「聴講する」など様々な立場があります。共通して言えるのは、これら立場を経験すれば、例えば、自身の役割が果たせたことによる達成感や満足感、舞台上に立って披露している演者への尊敬や敬意を表する想い、聴講から得た日頃の疑問点などへの解決の足掛かりなど、さまざまな感情から活力が得られ、その後の業務にも生かされているのではないのでしょうか。元気をもらえるのが学会なのです。

さて、今学会の講演では、平成 30 年度診療報酬・介護報酬同時改定に向けて、日本作業療法士協会制度対策部保険対策委員会より梶原幸信先生をお招きして、直近の情報を話ししていただきながら、我々が準備しなければならないことを確認できる貴重な機会にしたいと思っております。

また、精神科領域に関連してメンタルヘルスケアと就労支援をキーワードに事業を展開し、活躍されている芳賀大輔先生による、「就労支援の中での作業療法士の役割」と題した講演も用意されています。障がい者のみならず、すべての方々を対象にした就労へのサポートについて、作業療法士の視点がどのように生かされているのかをお話しいただけることをとても楽しみにしています。

最後に、学会への参加には前述したどの立場でも構いません。参加して得られるものは必ずあり、その効果は大きいものです。積極的に参加して元気をもらいましょう。

